

## 【連載：第6回 福山市の生活困窮者自立支援のひとこま】

76才の男性Aさんが社会福祉協議会の生活困窮者自立支援センターに来所され「ガス・電気が止められる！お金を貸してほしい」と来所されました。詳しく話をお聞きすると…。

- ・ 半年前まで年金月額約12万円とアルバイトの収入5万円～7万円、合計17万円～19万円で生活していた。
- ・ 家電製品を数点購入しローン組んだ。月額約2万円返済。
- ・ その直後に体調を崩し、アルバイトを辞める。約1ヶ月療養。
- ・ 回復後、再びアルバイトを探すも適当な働き場が見つからず。
- ・ 住まいはアパート。家賃5万円。
- ・ 収入が減少、家電のローンや家賃、食費などの支払いに追われ、ガス代・電気代を滞納してしまった…とのことでした。

こちらからは家計の見直しのアドバイスや食料支援の利用などを提案。また、仕事を探すために一緒に関係機関を同行することを約束しました。

話を聴く中で「頼れる家族や親戚もいない。相談できる友人もいない」という言葉がとても気になったので、Aさんの担当の民生委員のBさんをご紹介しました。

数日後、Aさんのアパートを訪問すると留守。「民生委員のBさんならわかるかもしれない」と電話をすると「あなたはどこにいる？Aさんの自宅前？今からそこに行く、ちょっと待っていて」と。Bさんが案内してくれたのは、近くCさんの自宅。Aさんは庭の草取りに汗を流していました。

「この地域には住民同士でちょっとした困りごとを有償で支え合う『おたすけ隊』がある。Aさんと話をしたら『毎月20,000円くらい生活費が足りない』と言われたので『おたすけ隊に入会して活動してみないか？お小遣い程度の収入にはなると思うよ』と誘った。他の会員にもできるだけAさんへ活動を回してもらうようお願いをした。個人的にお寺の掃除も頼まれているのでこれもAさんへお願いをしようと思う。少しでも生活費の足しになればと思って」とBさん。

Aさんは「お金もそうだが、気にかけてくれる人ができてうれしい。おたすけ隊に入ったその日に歓迎会を開いてくれた。今までは一人で何でもできると思って地域の人と話すのは『煩わしい』と思っていたが、仕事が無くなって数ヶ月間本当に心細かった。身近に相談できる人たちがいるというのがこんなにも心強く感じるとは思わなかった」と。

私たちの知らないところで、地域のつながりで救われている人はたくさんいるのだな、と感じるとともに、私たちソーシャルワーカーは相談者に伴走しつつ、身近なところに相談できる人・場所を増やしていくことが役割なのだ、と痛感した事例でした。

ホームレス支援委員会 鳥海洋治



## 中南支部からのレポート

広島県社会福祉士会中・南支部に所属している松藤拓史です。呉のホームレス支援の現状について報告させていただきます。

2023年7月までは、私の職場がある呉市安浦町の男性1名と旧呉市街の橋の下で生活している男性1名のところに訪問していました。旧呉市街へは、中・南支部の会員や市民ボランティアの計3〜4名で毎月第4火曜日に集まって、手作りの食事やカイロ、蚊取り線香、ガスボンベなどの日用品を持って訪問し、時には行政と連携し給付金等の受給支援もしていましたが、その男性が2023年8月に橋の下で倒れているところを発見され、救急搬送、医療機関に入院し、その後は療養型の病院に入院してからは、旧呉市街での活動は（他にホームレスの方の情報がないことを確認して）休止となっています。

現在は安浦町の男性のところに、食事や日用品を持って月に1回、時に社会福祉士の実習生を連れて訪問しているという状況です。

私がホームレスの人たちと関わる中で、強く感じることは、それぞれに生きてきた過程や背景があり、価値観はさまざまであるということです。

「生活保護だけは絶対に受けたくない」という人や「この生活をしたいからしているんだ」という人、暑い寒い時期や台風、大雨でも「大昔の人はみんなこういった生活をしていたし、自然が相手のことをいちいち考えても仕方ない」など、どこか達観した人も居ます。

それぞれが大事にしていることや抱えている事情も違い、支援者の物差しでは測れないこともたくさんあると感じますが、みなさん、つながり自体を拒否されることはなく、必要とされている方も多いように感じます。その人その人の思いを大切にしながら、つながりを大事に、今後もこの活動を細く長く続けていきたいと思えます。



## 【新連載スタート】①「私がであったホームレスの方たち」

冬空の中、久しぶりにJRを使い広島駅に行く。駅全体が改修中で迷子になりそう。20数年前、駅の地下道にいたあのおじさんやおばさんたちは、どこに行ったのかしら。コロナになり、この活動も様変わりしてきた。と同時に目に見えるホームレスの方たちが、どこかに消えてしまった。今の広島市にはいないことになっている。しかし、今でも様々な形でホームレスの方たちの支援にあたっていると、隠れた、もしくは隠されたホームレスの方たちの人数が決して少なくないことは現場の感覚として強く感じている。

これは、私が、ホームレスの方たちと出会って、今でもその支援をしていることのお話です。

私が社会福祉士会で、ホームレスの方の支援を始めたのは、2000年ごろ、当時広島県社会福祉士会では法人化に向けて、公益事業、社会貢献事業をしていこうということで、すでに広島で活動していた「野宿労働者の人権を守る広島夜回りの会」の方たちやキリスト教会の方たちと一緒に、ホームレスの方の支援を始めた。当時は、広島市内にもホームレスの方たちがたくさんおられ、200人とも300人とも言われていた。何度か活動について話し合いがもたれ、フランスに派遣されていたシスターが、セーヌ川で船を使って、ホームレスの方に入浴してもらったとか、教会のボランティアの方たちが、おむすびを作ってくださり、市内のどのあたりに配っていくとか、様々な情報を交換した。

私たちは、水曜日の夜に観音町の教会に集まり、ボランティアの方たちと話し合った後、それぞれの配布地域に先に行って、後発隊がおむすびや食料を持ってきてくれるのを待った。

私は広島駅地下道が担当で、観音教会を先に出て、当時の広島駅前の駐車場のあたりで、後発隊が持ってきてくれるおむすび、食料、一緒に配布するボランティアの方を待つ。結構時間が遅くて、20時位から待っていても来るのは21時半ごろから、遅い時には22時半ごろとなった。この後発隊は観音教会からおむすびを持って各拠点に配ってくるので、どうしても時間が読めないし遅くなる。拠点は宇品公園、平和公園、広島城、子ども文化科学館のあたり。

広島駅前で後発隊をただひたすら待っていると、酔っ払いに声をかけられて怖い思いをしたこともある。そんな嫌な思いもしながら、おむすび隊とみんなで地下道に行く。まず、1か所で既に並んで待っているおじさんや、おばさんにおむすびや、みそ汁を渡す。みそ汁は本当に味噌と汁だけでほぼ具は入っていない。それでも、毎回おじさんやおばさんたちは「あったかい」と喜んで、大切そうに持っていかれる。

一通り配り終わると、今度は取りにきていない人に配って回る。複雑にいき組んだ地下道の路の端々に段ボールの大きな箱を置き、その中に入ってもう寝ておられる。そーっと声をかけて、返事があれば手渡し。返事がなければ側に置いて帰る。段ボールも様々で、箱の中で寝ている人、段ボールを下に敷いてるだけの人、コンクリの床に直に寝ている人もいる。一人一人に声をかけて、おむすびを渡す。ありがとうと言う人もいれば、黙って受け取る人も、眠っているのか聞こえないのか反応のない人もいる。

地下道を一回りしたら、今度は駅前大橋の下に行く。そこは、段ボールの村ができています。段ボールをうまく使って囲いのようにして、一人用の居場所ができています。段ボールだけではなく、ブルーシートで囲っている人もいて、テント村のような感じでもある。長期滞在の方もおられる。そこでも一人一人というか1軒1軒声をかけておむすびを渡す。面白かったのは、駅前大橋の下を流れる川で釣った魚を干し魚にしている方などがいて、顔見知りになると、「ヌートリアがいて、かわいい」と餌をやってペットのようにしている話なども聞けた。私が最初に出会った「ホームレス」の方は、この地下道のおじさんやおばさんたちだった。

地下道におむすびを配っているとどこからか、あたかもボランティアをしているという感じで、一緒に声をかけて活動に参加してくるおじさんもいて、誰だろうかと思っていたら、実は手配師のような人で、仕事をするおじさんたちを監視しているのだとか。顔見知りになったおじさんからは、駅前の駐車場に何年も不法駐車している車があり、それは逮捕されてその人が帰ってこれなくなったからだとか、面白い話も聞けた。どうして生活保護を取って住居を得ないのかという話も、それぞれに、様々な事情があるようで、バス停の前の長いすが寝場所というおじさんは、もう慣れたからと、寝袋にくるまって夜明けを待つ生活を続けている。

夜回りを終わると24時過ぎることもあり、バイクで帰っていたが、帰るのも怖くなる時

間であった。2～3年、夜回りに参加したが、私も仕事が忙しくなり、体力的にも持たない  
と思って、途中で辞めてしまった。

その後、相変わらず、様々な事情で家を失った方たちに、支援をしているが、最初の出会  
いはここからだった。

振り返ってみると、2002年にホームレス自立支援法ができ、同じ年に広島県社会福祉士  
会ホームレス支援委員会が結成されている。ホームレス支援委員会は、その後もずっと活動  
をしており、今も実施している「入浴サービス」も原点はお風呂に入れられないおじさんたちに  
入浴を提供するにはどうしたらよいか、と考えてできたサービスだった。この入浴サービス  
もいきさつがあり、この話は次回にでもしましょう。 今日はこちらまで。

田中洋子

★★

## くつろぎ入浴サービス

2024年11月9日に開催したホームレス支援委員会にて、委員会結成当時から実施してきた「くつ  
ろぎ入浴サービス」を、2025年度からリニューアルというか、原点に戻ることを確認しました。そ  
のため2025年1月から3月まではいったんお休みとします。

2025年度からは、現に野宿生活を送っておられる方や、自宅での入浴が困難な状況に置かれてい  
る方を対象に、月1回・半日程度の活動時間に集約することとしました。なお、臨時利用の場合は  
この限りではありません。

この移行のために、何人かの方には今後の利用を遠慮（卒業）いただくことになりました。その方  
たちにとっては、月に1回の「くつろぎ」がなくなることになってしまいましたが、これを機会に、  
これからの生活を見つめなおして頂くきっかけになった方もあります。「くらしサポートセンター」  
の相談に繋がり、医療や福祉の支援を受けることになるなどです。

## 寄付お礼(2024年1月～12月)

 **心より感謝申し上げます。**

団体：あいあいねっと（フードバンク）様、日本キリスト教団広島牛田教会様（大人食堂食材）、日  
本キリスト教団西分区様（現金）、社会福祉法人藤田会 神田山長生園ことぶき苑様、広島市社会  
福祉協議会様、（他2団体）

個人：会員お二人（カップ麺、おかゆ等匿名希望）・田辺様・矢野様・小笠原様・宮尾様・寺田様 そ  
の他 63名（会員10名含）様 から、様々なお心遣いを頂きました。ありがとうございます。

## 寄付ボランティア募集（お問合せ先：広島県社会福祉士会事務局 TEL:082-254-3019）

支援活動で出会う生活困窮者（路上、在宅）の方々に提供する生活用品等を寄付いただければ、その人は助かります。空腹の人はお腹を満たし、お金に余裕がない20歳代の若い人は必要な家具、電気製品等を貰えれば生活は豊かになり、それにとどまらず、寄付ボランティアと貰った人との双方の間で思いやり、暖かい心、信頼、尊敬等が醸成できます。

【食料品】米、カップ麺、レトルト食品、菓子等【家具電気製品】こたつ机、天井照明、冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電子レンジ、炊飯器、IH・ガス台、テレビ、ラジオ【生活物品】自転車、軽い布団、マットレス、ベッド など